

7 学校行事での介助体験（川島ひばりが丘養護学校）

1 ボランティアスキルアップ研修について

（1）はじめに

川島ひばりが丘養護学校のボランティアスキルアップ研修は、学校教員や外部講師による講義と小中学部の授業での介助体験で構成されている。特徴的なのは、水泳の実技演習があることと文化祭（ひばり祭）での介助体験を企画している所である。募集は広報やホームページでの募集の他に、近隣の大学、短期大学に案内を配布している。参加者は最大で15名である。

（2）研修日程

日	期日	内容	内 容 の 詳 細	講師・担当者
1	9/6	講義	『本校の特別支援教育について』	学校職員
		講義	『保護者からの願い』	保護者
2	9/13	演習	からだへのかかわり方について	学校職員
		演習	肢体不自由児の水泳について実技	学校職員
3	10/10	体験	小中学部のクラスで介助体験	小・中学部
4	10/21	体験	小中学部のクラスで介助体験	小・中学部
5	11/11	体験	小中学部のクラスで介助体験	小・中学部
6	11/22,23	体験	小中学部のクラスで介助体験	小・中学部
7	11/29	講義	『介助体験報告と懇話会』	本校教頭
8	2/14	講座	『障害児教育の今日的動向と運動に障害のある子どものコミュニケーション』	国立特別支援教育総合研究所研究員

（3）研修参加者の感想

- ・食事場面では、子どもに合った食べさせ方や形態の違う食事を実際に見ることができ、参考になった。
- ・学校生活の流れを体験でき、養護学校の理解が深まった。
- ・子どもたちとの接し方では、やりとりの大変さを知ると共に、受け入れることで子どもたちと心が通い合うことに気づき、子育ての参考になると思った。
- ・自分の身体で触れることを体感でき、関わり方の参考になった。

（4）研修の成果

- ・ボランティアの介助体験を通して、職員の理解を深めることができた。
- ・講義や実技研修をもとに、同じクラスでの介助体験を行うことで、肢体不自由児へのかかわり方の理解を深めることができた。

（5）研修の課題

- ・PTAとの連携を図りながら、ボランティア登録や校内体制作りの検討に取り組む。
- ・社会福祉協議会との連携を図りながら取り組む。

2 体験『ひばり祭(文化祭)での介助』(川島ひばりが丘養護学校小・中学部)

(1) 内容



朝の会での児童の介助



演劇中の待機児童の介助



発表見学中の児童の介助



スポットライトの仕事

介助体験の一つとして、文化祭での介助体験を取り入れている。当日は通常の日課と違い、それぞれのグループが独立して動くので、日程の流れを把握するだけで大変だが、担当したグループに合わせて活動していた。

発表の時は、待機している児童生徒を支援したり、スポットライトを操作したり色々な活動を行っている。また、他のグループの発表を見学するときは、車椅子を押すなどの介助体験もしている。

(2) 参加者の様子

- ・3日間同じグループでボランティア体験を実施したことで、当日は担任との連携や子どもとのやり取りがスムーズにでき、トイレや食事など落ち着いて介助を行っていた。
- ・学習発表や校内見学では、グループの一員として与えられた役割を適切にこなしている様子が見られた。
- ・子どもたちにも笑顔や安心した様子で過ごす場面が多く見られた。



閉会式で一緒にダンス

(3) 参加者の感想

- ・同じグループでボランティア体験をしたことで、グループの活動に見通しが持てて安心して活動することができた。
- ・子どもたちと楽しく過ごせ、自分自身にとっても大変勉強になった。
- ・子どもたちとのコミュニケーションを深めるためには、もっと回数を重ねることが大切だと思った。

8 学校開放講座での介助体験（蓮田養護学校）

1 ボランティアスキルアップ研修について

（1）はじめに

蓮田養護学校のボランティアスキルアップ研修は、学校教員や外部講師による講義と学校開放講座での介助体験で構成されている。特徴的なのは、開放講座での介助体験を企画している所である。募集はホームページ上の掲載と保護者への案内状の送付などで行っている。参加者は9名であった。また、全9回の内容に対して、6回の出席で「修了書」が発行されることになっている。

（2）研修日程

日	期日	内容	内 容 の 詳 細	講師・担当者
1	7/2	講義	『特別支援教育の理念』	文教大学教授
2	7/19	体験 講義	開放講座での介助体験 『本校のノーマライゼーション教育について』	学校職員 学校職員
3	9/20	体験	開放講座での介助体験	学校職員
4	10/11	体験	開放講座での介助体験	学校職員
5	12/20	体験	開放講座での介助体験	学校職員
6	1/17	体験	開放講座での介助体験	学校職員
7	2/21	体験 講義	開放講座での介助体験 『筋ジス児の健康上の配慮と介助法について』	学校職員

（3）研修参加者の感想

- ・高齢で病気がちになり、休むことが多くなってきたが、身体が動く間はボランティアに参加していこうと思っている。
- ・掲示物等から学校の様子が分かり、とても感動した。
- ・今後も協力していきたい。

（4）研修の成果

- ・この機会に、きちんとしたことを伝達することができた。

（5）研修の課題

- ・開放講座へのボランティアを増やす工夫が必要である。

The screenshot shows the school's logo and name in Japanese. Below it, a section titled "【(病弱)ボランティアスキルアップ講座】御案内" (Information on the [Diseased Weak] Volunteer Skill Up Seminar) is displayed. It includes a link to return to the homepage and three numbered sections: 1. ねらい (Objectives), 2. 講座回数 (Number of seminars), and 3. 内容 (Content). Under Content, it details the first seminar: Date: July 2nd (Wednesday) 15:15~16:15, Location: Renita Special Education School Meeting Room, and Content: "Concept of Special Support Education". A large box at the bottom right contains the text "学校のホームページより（抜粋）" (Excerpt from the school's website).

2 体験『学校開放講座での介助体験』(蓮田養護学校 学校開放講座)

(1) 内容



「陶芸」作品づくりでの介助



「陶芸」粘土の準備

ボランティアスキルアップ研修の介助体験の場を、学校が行っている開放講座の中で実施している。開放講座には、①陶芸、②音楽Ⅰ、③音楽Ⅱ、④写真の4つがあり、6月から12月までの毎月第3土曜日に行われている。

陶芸は、板づくりを主とした皿、壁掛け等の制作、音楽Ⅰ、Ⅱは、リクエスト曲を歌ったり、演奏をしたりする。写真は、デジタルカメラを使っての撮影である。ボランティアは、開放講座で講師をしている教職員を手伝って、参加者と一緒に活動したり、道具の準備をしている。



「写真」構図決めとシャッター押しの介助



「音楽Ⅰ」ピアノに合わせて合唱



「音楽Ⅱ」琴の演奏を聴く

(2) 参加者の様子

- ・長年にわたって参加しているので、とても慣れた手つきで携わっていた。



「音楽Ⅱ」楽器演奏の介助

9 PTA行事での介助体験（三郷養護学校）

1 ボランティアスキルアップ研修について

（1）はじめに

三郷養護学校のボランティアスキルアップ研修は、管理職と外部講師による講義とPTA行事や授業での介助体験で構成されている。特徴的なのは、PTA行事での介助体験を企画している所である。募集は社会福祉協議会と連携して、広報紙に掲載して案内したり、パンフレットを配布している。また、社会福祉協議会のホームページ上でも掲載されている。参加者は26名。

（2）研修日程

期日	内 容	内 容 の 詳 細	講師・担当者
1 11/18	講義、学校見学	『特別支援教育を取り巻く現状』	校長、保護者
2 11/29	ワークショップ	『障害者の疑似体験、障害者への接し方』	外部団体
3 12/7	体験	クリスマスコンサートでの介助体験	PTA
4 12/10	体験	駅伝大会における介助体験	高等部
4 12/12	体験	作業学習における介助体験	中学部
4 12/1	体験	生活単元学習における介助体験	小学部
5 1/23	講義、反省	まとめの感想発表、講義	教頭

（3）研修参加者の感想

- 細く長く手探りでボランティアを続けてきたが、この講座のおかげで拙さを反省すると同時に、指針を得ることができ感謝している。特に先生の話の中で、周りの人間の温かいまなざしが大事と言うことを聞いて、基本は間違っていたんだなあと励まされた思いがする。できるだけ地元のたくさんの障害のある子どもたちやその保護者の方々と知り合っていこうと思う。
- 特別支援学校が、地域活動として門戸を開いていることに、心より敬意を表する。持続的な情報の発信がノーマライゼーションにつながると思う。

（4）研修の成果

- 障害児者や特別支援教育の理解、ノーマライゼーションの理解推進を図れた。
- 地域における「良き理解者」を得られた。何か活動するときの人的資源として期待できる。
- 修了者を登録し、ボランティアの支援が必要なとき連絡できるようにしたので、必要なとき支援を受けることが可能になった。
- 登録者の方に支援籍ボランティアを依頼する道が開けた。

（5）研修の課題

- 三郷養護学校がボランティアを受け入れる体制の整備。
- スキルアップしたボランティアの養成。

2 体験『PTA行事での介助体験』

(1) 内容

三郷養護学校では、PTA行事として、地元の4社会福祉協議会と連携して、クリスマスコンサートを行った。当日は、プロ歌手によるコンサートや太鼓サークルの演奏、ゲーム等で、ボランティアは、担当する児童生徒と一緒に、発表を楽しんだり、ゲーム等で活動の介助をした。

コンサートが始まる前に、ボランティアと児童生徒が交流する時間を設定した。



積極的に交流するボランティアの様子



「玉入れゲーム」で盛り上げたり、玉を渡したり

コンサートで一緒に歌ったり、踊ったり

(2) 参加者の様子

・初めての介助体験だったので、緊張した様子が見られた。事前にオリエンテーションを実施し、対面後一緒に歌を歌ったり、ゲームをしたりしてお互いの心が通い合う時間を設定した。その成果あって、楽しい時間を過ごせたペアが多くいた。トイレの介助やコンサートの最中も声を掛けたり、手を握ったりして心の交流を図っていた。突然の行動にどう関わって良いか分からぬといふ感じの人もいたが、全体的にはお互いの気持ちが通じ合っているように見えた。中には終了時にボランティアさんの手を取って涙ぐんでいる生徒も見られた。

(3) 参加者の感想

・子どもたちとどのように接すればよいか皆目見当が付かなかった。最初に「〇〇です、よろしく」と声を掛けたが、横目で2、3回見ただけで怒っているような感じだった。心の中で「この子、笑うことがあるのだろうか」と思ったが、その心配は不要だった。和太鼓の時に握っていた手をリズムに合わせて動かしているうちに冷たい手が次第に温かくなり、幸せそうな顔になった。玉入れが終わる頃になると素敵な笑顔を見せてくれるようになった。終わりの時間になっても、なかなか手を離してくれず、私の接し方はこれで良かったんだなあと幸せな気持ちで家路につくことができた。

10 通常学級支援籍の見学（久喜養護学校）

1 ボランティアスキルアップ研修について

(1) はじめに

久喜養護学校のボランティアスキルアップ研修は、外部講師による講義と授業での介助体験で構成されている。特徴的なのは、通常学級支援籍の学習風景の見学を実施したところにある。参加者の募集は社会福祉協議会と連携して、前年度まで行われていた、「共学支援プログラム」でボランティア登録した方への案内送付が中心である。参加者は延べ28名であった。

(2) 研修日程

期日	内容	内 容 の 詳 細	講師・担当者
1 10/20	講義	『支援籍学習について』 『共に生きる地域作りをめざすボランティア活動』	特別支援教育課 大学准教授
2 11/4	体験	クラスでの介助体験	
3 11/5	体験	クラスでの介助体験	
4 11/7	体験	小学校における通常学級支援籍の見学	支援籍小学校

(3) 研修参加者の感想

【講義】

- ・共に生きる地域づくりという話を聞いて、ボランティアの意味や生活について振り返る機会になった。
- ・支援籍学習とはどのようなものであるか十分に理解できた。
- ・支援籍の具体的な様子を紹介いただき、とても分かりやすかった。

【体験】

- ・いつもの散歩場面では見られない、子どもたちの授業の様子が見られ、子どもたちとの距離が少し、近づいた感じを受けた。
- ・今回体験して、子どもたちが頑張っている様子を見て良かつた。

(4) 研修の成果

- ・継続した「共学支援プログラム事業」の一環として学区内教育委員会の共催をいただき、実際の通常学級支援籍の見学も実施することができた。
- ・通常学級支援籍におけるボランティア支援の試行として通常学級支援籍の見学会を実施し、小学校での理解を得るきっかけ作りができた。
- ・登録ボランティアの方に、障害児に対する理解と支援についてのスキルアップを図っていただけた。
- ・久喜養護学校に在籍する児童が、居住する地域の小学校で学習する様子をみんなに見学していただく貴重な体験ができた。
- ・ボランティアの方に実際の通常学級支援籍の場面を見学していただき、通常学級支援籍での支援のイメージを持っていただけた。

(5) 研修の課題

- ・通常学級支援籍における小中学校での児童生徒支援について保護者の理解を得たり、学校内の共通理解を図ること。
- ・安心してボランティア支援が受けられるように、児童生徒とボランティアの関係づくりを図る場の設定をすること。

2 体験『通常学級支援籍の見学』

(1) 内容

久喜養護学校では、通常学級支援籍の様子をボランティアの方々に直接見てもらうことで、通常学級支援籍等の理解を深められるよう工夫している。実際の授業の見学なので、参加人数に制限はあるが、ボランティアの方にとっては、貴重な経験となっている。



授業に取り組む様子を見学



英単語を使った福笑いのゲーム

(2) 参加者の様子

- ・市教育委員会と支援籍小学校のご理解とご協力によって、通常学級支援籍の参観を実施した。参加者は、ボランティア3名の方と、関係教育委員会、社会福祉協議会、久喜養護学校担当者。英語の授業で、子どもたちが英単語を使って行う福笑いの「U p」「D o w n」「R i g h t」「L e f t」のにぎやかな声に引き込まれて、楽しくなごやかな雰囲気を体感した。時折、子どもたちに声をかけたりしていた。

(3) 参加者の感想

- ・特別支援学校と支援籍校と両校でその子に関われたら、その子をより理解できるかなと思った。
- ・一人一人の性格もあり、その日の体調もあり、それを考えながらボランティアをするのは、大変かなと思った。
- ・楽しい雰囲気でクラスの子どもたちと打ち解けている印象を受け、その子の好きなことや特技を生かせる場が増えればいいと思った。

11 考察

1 講義について

ボランティアスキルアップ研修事業の大きな柱の一つは講義である。多くの学校では、学校の概要や特別支援教育について、障害等については、管理職や特別支援教育コーディネーターが講義を行っている。ボランティアに関することについては、地域の社会福祉協議会に講義をお願いしている所もある。ボランティア育成という観点から見ると、地域との連携、特に地元社会福祉協議会との連携は欠かせないので、実施している特別支援学校については、引き続き講義をお願いするなどの連携を取っていいいただきたい。また、連携をしていなかった特別支援学校については、講義をお願いするなど、連携を深めて欲しい。

また、学校によっては、ボランティアや卒業生による体験談の発表などを企画した所もあった。実際にボランティアを志す参加者にとっては、経験者の話や介助を受けている児童生徒の話は、意欲を沸き立たせるだけでなく、自分がやろう正在していることが、実際にだれかの役に立つということを実感できる大変良い機会である。ボランティアの体験談などは、取り入れていただきたい内容である。

2 介助体験について

ボランティアスキルアップ研修事業のもう一つの大きな柱は、介助体験である。多くの学校では、支援籍に関わる小学部や中学部で、児童生徒に直接関わる介助体験を行っている。その内容は、参加者の経験や学校の状況によって様々であるが、給食や着替え等も含めて、およそ一日の全てを体験してもらうような形にしているケースと一部の授業の介助体験をするケースがある。

支援籍においては、特別支援学校の児童が、通常学級支援籍で地元の小学校に行っている様子の見学を企画しているケースがあった。これは地元市町村教育委員会や当該小学校の協力が不可欠であるが、可能ならば是非、企画の中に取り入れていただきたい内容である。また、大宮ろう学校では、ノートテイクの実技講習を行う中で、ボランティア研修参加者が実際に通常学級支援籍でのノートテイクボランティアを行っている。より専門的な技術を必要とするボランティアの育成のために実践的な内容となっている。研修参加者の声を聞くと、さらに意欲を高めている様子が伺え、研修の効果を感じられる。

3 課題

(1) ボランティアスキルアップ研修修了者の更なるスキルアップ

年数回の研修だけでは、学校側が期待している介助の技術を習得するには不足であるということ。ノートテイクや手話通訳などの高い技術を要するのもそうだが、知的障害の児童生徒に対する関わり方などでも、経験を積んでいかないと身に付かないものもあり、ボランティア登録者となっても、引き続きスキルアップ研修に参加していただくなどの働きかけが必要である。

(2) ボランティアスキルアップ研修修了者の活動の場の設定

研修を修了しても、支援籍学習で実際にボランティアが児童生徒を介助するよ

うになるまでは、ボランティアの介助技術の問題、児童生徒との相性の問題、ボランティア自身の都合の問題等の幾つかの課題をクリアしなければならないが、研修を修了された方々の意欲を維持するためには、比較的早い時期から実際にボランティアをしてもらえるような場の設定が必要である。支援籍も含めて学校生活の色々な場面で活用できるよう校内体制を整備することが必要である。

(3) ボランティアを受け入れる特別支援学校側の体制整備と共通理解

今、ボランティアは特別支援学校の様々な場面で、児童生徒に対して介助を行っている。しかし、まだ多くの特別支援学校では、ボランティアの受け入れについて明確な基準や体制の整備が確立されてはいない。何をどこまでお願いしていくか等、模索している学校も多い。今後、ボランティアスキルアップ研修事業を行う中で、校内体制についても検討を深めて欲しい。

(4) 参加者の募集について

ボランティアスキルアップ研修は、特別支援学校が主体となって行う事業であるため、参加者の募集も特別支援学校が行っている。幾つかの学校では、社会福祉協議会と連携して募集を行ったり、市町村の広報誌などで案内をしたり地域の関係機関と連携をして募集を行っている。ボランティアについては学校よりも多くの実績を持っている社会福祉協議会等と協力して、研修の案内や参加者の募集を行っていただきたい。

